

中学校 音楽科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 感じ取ったことと音楽を形づくっている要素〔共通事項〕を関わらせながら、表現したい自分の思いや意図をもつことができる。
- 音に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら、表現を工夫することができる。

思考力、判断力の育成

- 学年 第2学年
- 題材名 表情豊かに歌おう「早春賦」
- 本時の目標 歌詞の内容や曲想を味わい歌唱する。
- 学習の流れ (1時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の学習内容の提示 ○ 「早春賦」を斉唱し、曲に親しむ。	情景を思い浮かべながら歌おう	
2 知覚・感受 ○ 歌唱しながら感じ取ったことと曲の特徴を関連付けてワークシートにまとめる。 ○ 各自が感じ取ったことをグループ内で交流する。	・旋律の抑揚、拍子、リズム等が生み出す曲の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じさせる。 ・感じ取ったことと〔共通事項〕を関連付けてまとめる。 ・根拠を基にして、感じ取ったことを発表させる。	・曲の特徴を感受し、それらの働きによって生み出される雰囲気を感じ取っている。〔創意工夫〕(ワークシート)
3 歌唱表現 ○ 曲の特徴を理解し、表現したいイメージをもちながら斉唱する。	・感じ取った曲の雰囲気や歌詞の内容を基に、表現したいイメージを膨らませる。	

言語活動の充実

- 本時の目標 曲にふさわしい表現を工夫する。
- 学習の流れ (2時間目/全2時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の学習内容の提示	曲にふさわしい表現を工夫しよう	
2 歌唱表現の工夫 ○ 表現したいイメージになるよう工夫する。 ○ グループ内で、各自の考えを意見交流し、それを基に表現を工夫する。	・工夫した表現を焦点化するため、強弱に焦点を絞って工夫させる。 ・二部形式についても理解させ、曲の形式を生かした歌唱表現を工夫させる。 ・実際に歌って試しながら、イメージした表現になるように工夫させる。	・強弱に着目し、それらの働きによって生み出される雰囲気を感じ取りながら音楽表現を工夫している。〔創意工夫〕(行動観察)
3 歌唱表現 ○ ふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図をもって歌う。	・録音した歌唱を聴かせ、歌詞の情景、旋律の抑揚や強弱とのかかわりについて感じ取らせる。	・曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。〔技能〕(観察)

言語活動の充実

指導のポイント

表現したい思いや意図をもたせるため、ワークシートを工夫する

■ 感じ取ったことと音楽を形づくっている要素〔共通事項〕を関連付けることによって、生徒が曲の特徴をとらえる助けになり、自分の考えを整理しやすくなります。

<「早春賦」ワークシート例>

感じ取ったこと	曲の特徴	表現したいイメージ
1 曲を聴いて、感じたことやイメージしたことを書きましよう。 おどりたくなる感じがして春が来たのがうれしい気・・・	2 どのようなところからそう感じたのかを書きましよう。 ヒント 旋律・拍子・リズム・速度 強弱・歌詞など 8分の6拍子がおどりたく・・・	あたたかい春が早くきてほしいと待っている気持ち。

表現の工夫にかかわる〔共通事項〕を絞って提示する

■ 生徒に表現を工夫させる際に、**工夫させたい〔共通事項〕を明確に提示**しておきます。その際、**なぜそのように工夫したいのかといった根拠を述べさせる**ことが大切です。

また、歌唱では、歌詞の内容を感じ取らせ、歌詞と音楽とが影響し合っって楽曲としての表現が生み出されることに気付かせることが大切です。

【発表例】

歌い始めは、だんだん音が高くなっているので、それに合わせてだんだん大きくしたい。
根拠 (旋律) 工夫 (強弱)

春なのに冬のような寒さに堪えている様子が書かれているので、2回目の「時にあらずと声も立てず」は、息をひそめるようにppで終わりたい。
表現したい思い 工夫 (強弱)

【留意点】pp ff dim.などの音楽の用語や記号を扱うときには、知識として理解させるだけでなく、実際に歌って試すなど、体験を通しながら工夫させましよう。



新学習指導要領では

音楽に対するイメージ、思い、意図などを相互に伝え合う活動を重視

- 今回の改訂で、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容〔共通事項〕が新設されました。この〔共通事項〕を手掛かりとして、**音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解したりする**などの活動を通して、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を目指しています。
- **言葉によるコミュニケーションを取り入れることによって、音によるコミュニケーションを一層充実させる**ことが大切です。生徒が音楽に関する言葉を用いて、自己のイメージや思いを伝え合ったり、他の生徒の意図に共感したりすることができるような活動を取り入れます。そうすることによって、仲間とともに創意工夫して表現する喜びを味わうこと、人によって様々な感じ方があることに気づき、生徒一人一人の音楽に対する価値意識を広げることにつながります。